

令和5年度 研究の概要

E2グループ
千種台中学校 松浦 充

学習課題を関連づけながら主体的に学ぶ生徒の育成

1 研究のねらい

社会の変化が著しい現代において、変化に柔軟に対応するためには、直面した課題に対して、これまでの経験や知識を基に、自分で発展させて解決に取り組むことができる力が必要であると考えます。学習指導要領解説編(2017)には、「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成すること」と示されています。しかし、本校の生徒は、教師の解説を熱心に聞き、教えられた解き方を繰り返し練習して習得しようとするが、発展的な問題に対して、前時の内容を自ら関連づけて、問題解決に粘り強く取り組む姿勢には課題があると考えています。これは、これまでの授業で、解決の見通しをもつことや解決に必要なと思う既習の学習内容を、どのように利用すればよいかを考えたり、次の学習内容につなげるような取り組みが少なかつたりしたためであると考えます。

そこで、単元を通して学習内容のつながりをより明確にし、既習の学習内容を結びつけながら発展的な学習を進めていくことで、生徒に変容をもたらせ、直面した課題に対して、主体的に学ぶ生徒を育成したい。

2 研究の内容

(1) 研究の手立て

学習内容のつながりを意識できるように、授業のまとめを工夫していく。

【手立て①】本時の学習内容の見通しをもつ場面の設定(着目する力)

提示問題を提示した後に、前時のまとめと提示問題を見比べるなどして、既習の学習内容を振り返らせる。そして、提示問題を解決するために新たに必要な数学的な見方・考え方について、生徒個人の気づきを表出させる。その後、対話的な学びを取り入れることで、本時に使えるような見方・考え方を顕在化させ、自力解決に取り組むことができるようにする。

【手立て②】話型を用いた授業のまとめ(統合する力)

自分の学習過程を振り返り、「〇〇のときは□□」という話型を用いて、本時の学習内容のまとめを行う。統合的な視点で生徒個人のまとめを記述させた後に、対話的な学びを取り入れることで、数学的な見方・考え方を顕在化させる。まとめの共有にはロイロノートを利用し、1つのノートに授業のまとめを記録していくことで、単元を通して、既習の学習内容が一覧できるポートフォリオを作成させ、以降の授業で問題解決に活用させる。

(2) 検証方法

【手立て①の検証】

前時の学習内容と結びつけて、提示問題を解決することができたか、生徒の記述内容から調べる。

【手立て②の検証】

本時のまとめのみならず、次の課題などにも結びつけることができる統合的な記述をすることができたか、生徒の記述内容から調べる。

2 実践予定について

6月 「平方根」

7月 「二次方程式」